

第 36 回 一宮市地域公共交通会議議事録

【開催日時】

令和 4 年 12 月 15 日（木） 10：00～12：20

【開催場所】

一宮市役所本庁舎 11 階 1101 会議室

【傍聴人】

3 人

【議事内容】

1. 開会

・本日の会議は多様な議題がある。本来であれば今年度中に策定を予定していたが、きちんと議論を行い計画策定していくこととしたい。こちらについては、事務局から説明がある。この会議における位置づけは、委員の皆さまがそれぞれ何をしていただけるか、何をすべきか、我が事で考えて頂くことが重要であり、良い計画としていきたい。

2. 議題

報告事項

(1) 一宮市内バス路線等の利用実績

・事務局、名鉄バスより一宮市内を運行する路線バス（iーバス、名鉄バス）、iーバスミニの利用実績を報告

《質疑応答》

・iーバスミニの利用者数について、多いのか少ないのか、事務局としてどのように考えているか。

→iーバスミニの利用者数は想定よりも少ない結果である。（事務局より回答）

・運営の問題か、金額の問題なのか、何か運行で悪いことがあるのではないのか。

→利用者からのアンケートは出来ていないが、使い勝手が悪いことが想定できる。（事務局より回答）

《意見・要望》

・iバスの木曾川・北方コースについて、国の補助基準の15人を下回っていると申請があった。来年度10月からの補助については、どういう風に15人を上回るように改善していくか、真剣に考える必要がある。iバスミニも利用が少ない状況にある。現状をきちんと整理・分析し、次の計画にも活かしていただきたい。

→問題は認識している。今後、どのようにしていくか考えてまいりたい。(事務局より説明)

・木曾川町、北方町の複数町(旧町)を跨いでおり、15人以上の利用があれば国からの補助がある仕組みである。コロナの影響もあり、利用者が減少している。国庫補助はある程度大きい金額であり、一宮市の負担が大きく変わる。一般的には、廃止または改善する必要がある。一宮市として負担するのであればそのままが良いが、検討が必要であり、そのタイミングである。ある程度利用がある路線であるため、この路線は優先順位が高い地域であり、住民懇談会も集中的に実施していく必要があることを理解いただきたい。iバスミニについては、他の類似の都市と比較し、分かっている程度利用できるが、知らないと思われない。本当に困っていれば、調べてでも利用する。どのように使いやすいものとしていけるか、検討は必要である。例えば、みよし市などにおいては10年以上実施しているが、ただのバス停で乗り継ぐのではなく、スーパーで乗り継ぐなど利用しやすいようになっている。この会議でも、議論していきたい。他都市でも利用者数は、令和元年と比較し8~9割戻ってきている。そのため、先ほどの木曾川・北方コースのように令和3年よりも令和4年の方が下回っているのは相当問題があるという視点で見えていただきたい。

協議事項

(2) 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について(資料5)

・事務局より令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について説明

○6. 計画・評価の推進体制について(P.8)

《質疑応答》

・今年度、計画策定の年であるが、今年度の公共交通会議は2回で終わりか。

→今年度は、本日の会議で終了を予定している。(事務局より回答)

《意見・要望》

・昨年度、計画策定している都市では、8回実施している都市もある。

・本日の会議も掲載いただきたい。また、部会についても、記載いただきたい。調査事業を実施されているため、もう少し部会の進捗状況を具体的に記載していただけると良い。特殊事業があるならば、しょうがないが、もう少しできることがあったのではないかと考えている。

・市が、あまり切実に考えていないのではないか。

→今後の状況を見ながら考えていきたい。(事務局より説明)

・事務局においては、質問には適切に回答いただきたい。また、調査事業については、日付や内容等をきちんと記載頂きたい。

○計画の目標の達成状況とその理由について (P. 4)

《意見・要望》

・(4) 免許証返納については達成されている。高齢化の問題は喫緊に迫っており、団塊世代の返納が大きな問題であるとする。

○計画目標の達成に向けた今後の取組方針について (P. 6)

《意見・要望》

・今後の対策について、10月に福祉券の対象を90歳から85歳まで下げたため、これまでの140%の利用増加となっている。タクシー乗務員が不足している中で、整合性なども考慮しないと、持続可能性が担保できない。i-バスミニの運用も、きちんと考えていく必要がある。ひいては、バスにも影響が出てくる。歩ける方には歩いていただくなども必要ではないか。

もう少し議論できると良い。

・タクシー券の配布は、便利で良いとの意見が多い。サービス開始時は上手に行くが、数年後には、破綻している都市が全国にある。結果、バスの重要性が言われている。他都市の失敗事例を学び、即行動する必要がある。タクシーは今後、更に少なくなっていくため、この計画で議論していく必要がある。例えば、1台のタクシーに多く乗ってもらう工夫をしていくなど、きちんと実践していくことが課題である。

・ドライバー不足が大きな課題である。一宮市においては、拠点となるハローワークが立地している。厚生労働省からも重点的に募集する職種として設定されており、交通を守るという視点からも、市としても力を入れて頂きたい。

○地域公共交通調査事業の結果の活用について (P. 12)

《意見・要望》

・路線バスの延伸などは、まだ議論できていない内容であり、不用意に記載してはだめである。市が実施してくれると誤解を与える可能性がある。リスクが高まっているため、計画策定をして実践していくことが課題である。

○まとめ

事務局においては、委員からのご意見を踏まえて修正頂きたい。1月中旬まで日程があるが、会長一任か書面協議かどちらが良いか。この1週間で委員から事務局へ追加意見があれば提出いただき、それも踏まえ修正する。最終的には、会長に一任ということで進めたいが良いか。

《協議結果：全員賛成》

協議事項

(3) 一宮おでかけバス手形の取り扱いについて (資料6)

- ・事務局より一宮おでかけバス手形の取り扱いについて説明

《質疑応答》

・名鉄バスの努力により、大変使い勝手の良い乗車券を運用いただいている。第三者評価委員会でも評価いただいている施策である。公共交通会議において、本格運行時の運賃改定は報告なのか、協議事項か。

→協議事項である。(運輸支局より回答)

→協議事項に修正する。(事務局より回答)

《意見・要望》

・以前の議論において、iーバスミニでも利用できないかと議論した経緯がある。このような扱いの範囲・内容や運賃については、協議事項としたい。それ以外の項目については、毎年報告していただく事としたい。

・名鉄バスの利用者数が戻らない、iーバスミニの大きな利用者数減少については、定期利用外の減少、つまり高齢者の利用減少が主な要因である。近年はマイカーを所有していない若年層が多いため、利用してもらえない層であるが、便利でない場合はネット通販などの利用となり、出かけてもらえない。一日乗車券(一宮おでかけバス手形)の目的としては、高齢者の利用をどう増やすか、若年層にどう活用してもらうかの視点が必要である。期限を切らない本格運行であれば、特にそこが重要となってくる。例えば、デジタル切符を発行している都市もある。

→研究しているところである。(事務局より説明)

・centX というアプリがあり、チケットを販売している。グループだけではなく、広く門徒を広げているため、是非このようなバスでも活用頂けると良い。

・おでかけバス手形搭載の際には一宮市内の鉄道も乗車できるように検討頂きたい。

・検討したい。

《協議結果：全員賛成》

(4) 第3次一宮市公共交通計画について

- ・事務局より資料7～9について報告

報告事項

- 策定に向けたデータ整理について（資料7）

《意見・要望》

・16ページに記載のある福祉券は300円ではなく600円に修正いただきたい。国庫補助もなく市独自の政策であるため、運賃は妥当であると考え。切実な課題もあり、議論を継続していく必要があると考える。

・介護など福祉部局とあわせて議論していく必要がある。一律の年齢ではなく、人により移動困難性が異なる。どのようにしたら良いのか。福祉部局との連携については、移動が困難な方に、どのようなサービスを提供していくのか議論・検討していくことであると考え。また、妊婦への対応も含まれるのではないかと。そのような議論が大事である。

報告事項

- iーバス利用実態調査について（資料8）

《意見・要望》

・iーバスOD調査結果について、一宮コースや千秋コースは若年層にも利用頂いている。このような若年層から高齢者まで全世代の利用があるのが理想のバスである。

報告事項

- 幹事会の報告について（資料9）

《意見・要望》

・「一宮市公共交通計画の事業（新計画たたき案）」の掲載があるが、この内容を検討して計画となっていく。運行事業者からは既に意見をいただいている。例えば、西口ターミナルへ

のバス集約について、東口からの方が早い路線もあるなど、大いに議論の余地はある。こちらについても、1週間を目途に、委員から意見をお願いしたい。

- ・12月において、深夜利用が無い状況にある。コロナの行動変容で、夜間の外出がない。深夜バスの運行については、今後もニーズが出てこないのではないかと考える。

- ・深夜バスはコロナ前であれば、重要な施策であった。ご指摘通り、現在はもう少し早い時間の方が、高校生など若年層を含めたニーズがあり、利用頂ける可能性があるのではないかと考える。名古屋の市バスは21時台、22時台が終バスとなっている。中核市である一宮市においても、ある程度の公共交通を確保することは重要であるが、時間については議論が必要である。名鉄バスとしても、現時点で23時台は考えにくいと想定できる。

協議事項

○第2次一宮市公共交通計画の延長、スケジュールについて（資料10、11）

- ・事務局より計画の延長、計画のスケジュールについて説明

《追加説明》

- ・他都市でも2年かけて計画策定している例はある。地域での議論も必要であり、検討項目も多く、慎重に進めたいため、計画策定機関を延長したいとの事務局提案である。また、目標値においても、コロナの影響を加味して暫定目標を設定するという事務局提案である。（会長）

《意見・要望》

- ・延長については地域の方の意見を吸い上げるためであるならば、しっかりと進めて頂ければと思う。9月、10月に素案まで持っていくためには、更に動きを早くして頑張ってもらいたい。策定にあたっては、幹事会も活用し議論・検討していただきたい。

- ・今年度の本会議は計画改定のための会議が必要であり、2月～3月の会議は必要である。次年度のスケジュールをきちんと決定して、地域へ伝えて進めていくことが重要である。一宮市においては、重点地区の記載がないが、どの地域で実施するのか。地域の課題が見えて

きているため、2月の段階で明らかにして頂きたい。意見を吸い上げるのではなく、地域・住民の方と同じ目線で議論し、いかに地域の方に利用してもらえるかを議論していく必要がある。今年度末の策定であれば、次年度以降の見直しが必須となってくる。地域との議論を進めて策定していく方がベターであると考えているがどうか。2月～3月にもう一度議論する場があるため、スケジュールを変更し、計画を延長することについて、承認いただけるか。

《協議結果：全員賛成》

3. その他

(1) 社会福祉法人の協力による買い物支援の実施状況について

(2) iーバス 一宮コース、尾西北コース「一宮西病院」停留所の仮設停留所の設置
について

(3) シルバーパス65・ゴールドパス70の購入費用の一部負担について

(4) ボランティア輸送支援の実施状況について

・事務局より上記4項目について報告

《意見・要望》

・丹陽は公共交通においても課題のある地域である。どのように取り組んでいくか議論が必要である。

○マイルートについて

・交通対策課より説明

《意見・要望》

・昨年度の実証実験から更にサービスを追加し、取り組んでいる。是非活用頂けると良い。

・このような事例は、一宮市で考えると、iーバスミニなどと親和性が高い取組である。ただの乗換検索だけではなく、利便性を高くし利用してもらえるよう工夫していくことが重要

である。

○最後に

・この年の瀬において、公共交通の予算について、国の政策が方針転換する可能性が見込まれる。これまでに拘らず、一宮市で実践できる、実践すべき取組を議論していきたい。一宮市は尾張の雄として、交通をしっかりやらなければならないという前会長のお言葉もあるため、国の制度が変わるときに先陣を切ってやっていきたいと思っているので皆さまにも協力いただきたい。

4. 閉会